

③ 「地域の景況調査集計」の分析

■ 「会員満足度調査」、「中小企業景況調査」の経営課題

<建設業>

中小企業景況調査

1位	利益率減少
2位	先行き不安
3位	売上不振

+

会員満足度調査

1位	官公需要の停滞
2位	下請け業者の確保難
3位	従業員の確保難

・官公需要の低迷により、利益率減少、売上不振となっており、下請け業者の確保難などもあり、先行き不安となっていると考えられます。

<製造業>

景況調査

1位	従業員の確保難
2位	需要の停滞
3位	生産設備の不足・老朽化

+

満足度調査

1位	仕入価格高騰
2位	利益率減少
3位	売上不振

・需要の停滞や仕入れ価格高騰により利益率減少となっており、従業員確保難、生産設備の不足・老朽化が直面する課題として考えられます。

<小売業>

景況調査

1位	消費者ニーズの変化への対応
2位	仕入単価の上昇
3位	人件費の増大

+

満足度調査

1位	先行き不安
2位	利益率減少
3位	売上不振

注:満足度調査は、卸小売業での回答である

・仕入れ単価の上昇、人件費の増大などにより利益率減少となっており、消費者ニーズへの対応などの要因もあり、先行き不安となっていると考えられます。

<サービス業>

景況調査

1位	店舗の狭隘・老朽化
2位	熟練技術者の確保難
3位	利用者ニーズの変化への対応

+

満足度調査

1位	先行き不安
2位	売上不振
3位	利益率減少

・先行き不安、売上不振が上位の課題であり、店舗の狭隘・老朽化、熟練技術者確保難などの事業所毎の課題があります。

＜参考＞佐賀県内経済情勢報告(財務省福岡財務支局佐賀財務事務所)の総論

平成28年8月に佐賀財務事務所から発表された7月時点での佐賀県内の経済情勢の判断については、以下のとおりです。

【総論】

県内経済は持ち直しつつある。

先行きについては、雇用環境の改善が続く中で、各種政策の効果もあって、緩やかに景気回復に向かうことが期待される。ただし、中国をはじめとするアジア新興国等の景気の下振れなど、景気を下押しするリスクや金融資本市場の変動の影響に中止する必要がある。

【総括判断】

	前回(28年4月判断)	前回(28年7月判断)	総括判断の要点
総括判断	持ち直しつつある	持ち直しつつある	個人消費は緩やかに持ち直しつつある。生産は平成28年熊本地震による影響が一部にみられたものの、持ち直しつつある。また、雇用は緩やかに改善されている。

出典：佐賀県内経済情勢報告(財務省福岡財務支局佐賀財務事務所)平成28年8月